しましま通信

2022年
特別増刊号
3月号
spring

懐かしい未来があるイチチヌ島々

旧正月の元旦はそれぞれの島で漁船に大漁旗を掲げているのが見られました。宮城島桃原漁港では毎年恒例の航海安全と豊漁を祈願して船によるパレードが行われ、六隻の漁船の大漁旗が沖ではためいていました。

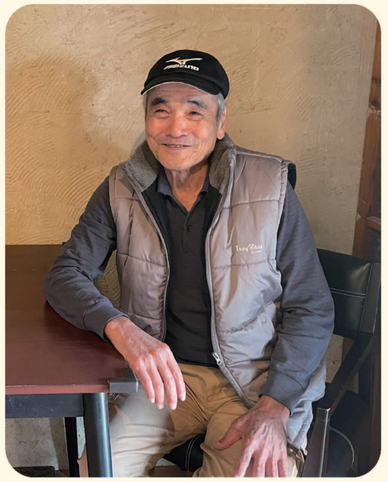
発行：(一社)プロモーションうるま

なんでも聞いて！ 空き家活用の大先輩

お世話係の声

岸本次夫さん（伊計島）

”伊計島のレジェンド”
”歩くメイクマン”など
数々の異名を持つ岸本さん。
移住者のお世話に加え
家の修理などをしてくれました。



唄三線と楽しい冗談が得意技。
いつも人を楽しませてくれる
ムードメーカーです。

家を貸したい人と借りたい人をどうやって繋いできたの？

島人の僕がお願いしたら「あんたに言われたら断れないさー」って快諾してくれて移住者もびっくりしてたよ。島の人には”用地交渉人”って言われているさ(笑)移住したい人を家に招いて僕の三線演奏やユンタクで交流したり、楽しんでるよー。だいたい宮城島のあごーりば食堂にいるから遊びに来たらいいさー。

空き家の課題と対処法は？

一つ目は家の老朽化。放っておくとシロアリに食われちゃうから定期的に風通しておくといいね。二つ目はお互いの信頼関係。どこが壊れているかなど現状を双方で確認したりきちんと契約書を作ったりするのが大事だね。

空き家活用に関わる上で気をつけていることは？

家主は家に風通ししてもらえるし、移住者は住めるしウィンウィンだよね。中立的な立場で対応していい関係になるように心掛けてるよ。

仏壇があるから人に貸しにくい…。

貸したいけど古いし
修理でお金がかかりそう…。

＼でもこのままだと老朽化するだけだから なんとかしたい！／

そんな空き家はありませんか？

空き家を活用したいけど、どうしたらいいかわからない。そんな方はぜひ空き家のこれからを一緒に考えましょう！放っておくとカビたり老朽化が進んだりして、後々大変になることも。定期的に風を通すだけでも家の寿命は伸びて、人に貸すことができれば家賃収入になることもあります。貸したい空き家をお持ちの方は、下記メールアドレスまでお問い合わせください。

今年度の津堅島でのお試し移住の受入は、沖縄県内のみならず全国的な新型コロナウィルス感染拡大状況を鑑みて、【中止】をとなりました。受入ができない代わりに、津堅島を知っていただくための移住ツアー動画の撮影を行いました。ご協力いただいた津堅島のみなさん、ありがとうございました。動画はWEBサイト「うるまで暮らす」にてご覧いただけます。

「うるまで暮らす」はコチラから▶

発行元／お問合せ先

PROMOTION URUMA
一般社団法人プロモーションうるま

TEL／098-923-5995
shima@promo-uruma.com （担当：田中、西貝、小林、森田）

令和３年度うるま市しま・ひと・しごと・未来づくり事業

記事・編集：眞鶴・西貝／デザイン：小林

うるま
ワタクシプロジェクト

※「ワタクシ」は自分自身の起業プロジェクト、そしてウチナーグチで「へそくり」という2つの意味が込められています。

「うるまワタクシプロジェクトは」、島しょ地域で新しいナリワイづくりに挑戦したい人をとことん応援して、大なり小なりお金を生み出す一歩を踏み出すまでを一緒に創り上げる、伴走型支援の起業（しごとづくり）スクールです。第2期は7組の方が参加しています。

こんな人にオススメ
島しょ地域での起業に向けて、具体的なコンセプトをきちんと明確化したい！

こんな人にオススメ
島の素材を活かしたアクセサリーをつくって、インターネットで販売したい！

こんな人にオススメ
古民家を改修して新しい飲食店を始めたいから、資金調達について学んで挑戦したい！

こんな人にオススメ
豊かな自然環境を活かして写真を撮ったり映像製作したい！

ポイント1 自分の「やってみたい」を形にする
欲しい未来は自分でつくる！自分にも周りにも、地域にもうれしい仕事を生み出そう

ポイント2 専門家による個別伴走で仕事づくりをサポート
専門家や事務局が伴走しながら、参加者の思いを形にしてコンセプトを固めていくお手伝いをします

ポイント3 実践的な場でトライアンドエラーで学ぼう
失敗しても大丈夫！サポート体制も万全なので、どんどんトライしてブラッシュアップしましょう

ポイント4 島しょ地域のキーマンと繋がり、地域理解が深められる
地域の素材や物件などの情報や、応援してくれる人も見つかるかも？！

Q スクールの期間ってどれくらい？

A 2021年10月から2022年3月までの約5か月間に、各チーム全５回ほどの研修と伴走型の相談対応を行いました。

Q どんな人が参加しているの？

A 島しょ地域に在住の方や活動拠点等をお持ちの方、これから移住予定の方などです。多くの方がアツい志を抱える個人やチームの方々でした。

Q 今期のスクールでは何をしたの？

A 島しょ地域での活動に向けて不可欠なコンセプトを、各分野の専門家と事務局が伴走しながら専属の応援団となって丁寧に形にしました。

Q プロジェクトの成果は見ることはできるの？

A 2022年2月下旬に「プロジェクト発表会」を開催した際の様子や、参加者が5か月間練り上げた計画や試作品を、web上でご覧いただくことができます。▶「しまみらいBridge」で検索

1期生ニュース いま宮城島がアツい！上原と桃原に食堂オープン

ワタクシプロジェクト1期生のお店**「あごーりば食堂」**が宮城島上原集落に昨年12月18日にオープンしました！開店祝賀会には島内外からのお客様がお越しになり、宮城島郷友会による舞踊などが披露されました。地域のみんなで約1年半かけて手作業でリノベーションした古民家の食堂。温かみのある雰囲気で長居してしまう心地よさです。運営団体SU-TEの石川さんは「"あごーりば"とは地域の言葉で"召し上がれ"という意味。食事だけでなく何かいいものを持ち帰ってほしい」と語りました。島しょ地域にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

■ Instagram▶@ago_riba
■ 住所／うるま市与那城上原21　■ 電話／090-3437-9675(土田)
■ 営業時間／平日11時～14時、土日祝11時～16時（※定休：水・木・第一日曜）

Instagram

宮城島桃原集落からは**「海畑食堂てぃあんだ」**。1月29日のオープン日にはお買い物やお食事のお客様で賑わいました。広々とした店内には食事スペースのほかに物販コーナーもあり、地域の方が育てた島野菜や桃原漁港で水揚げされた鮮魚をを手に入れることができます。代表の勝連さんは「漁師の金武が獲ってきたお魚はとっても新鮮！宮城島の"てぃあんだ"を味わってほしい。地域のアンテナショップ的な役割を目指し、ゆっくりユンタクできる場にしたい」と語りました。イマイユのバター焼き定食や煮つけ、マース煮など、素材そのものの味を楽しめます。

■ 住所／うるま市与那城桃原196（桃原漁港うしろ）
■ 電話／090-43556-2156（金武）・090-9562-3910（勝連）
■ 営業時間／金土日11～15時

公式LINE

今回のうるまワタクシプロジェクトは…

第1回 参加者同士が思いでつながる

ワタクシプロジェクトのはじまりとして、2期生に加え１期生にも参加していただき、互いの自己紹介や１期生の体験談を交えつつワタクシプロジェクト第２期のキックオフを行いました。

第2回 あなたインタビュー

前回も大好評だった「コトバグラフィッカー」のちょこさんによる「あなたインタビュー」。参加者の皆さんと面談しながら、思いの源泉や大切にしている価値観などを聞き取り、絵として可視化していきました。

第3回 島を巡るフィールドワーク

2日間にわたって、伊計島・宮城島・平安座島・浜比嘉島の4島を巡り、自治会や島民の方々に挨拶し、島の暮らしや文化、取り組み等を学ぶことができました。

第4回 専門家による伴走と小さな挑戦

専門家の方々と約５回伴走セッションが行われ、コンセプトを作りました。11月と2月には、うるマルシェにて1期生と２期生がプロジェクトのPRに挑戦しました。

カリキュラムと同時に専門家が伴走して、プロジェクトの現実性を高めます
約4ヶ月のカリキュラムと専門家相談の結果、島人から7つのプロジェクトが生まれます！

1 歩くと出逢える「島の体験マップをつくろう」島しょ地域ほろほろプロジェクト

内容

この地域を訪れる方々が、もう一歩踏み込んで地域のことを知れる地図をつくりたいと思っています。地図を手にした人たちは、歩いて島を巡り、島の人や景色や文化、自分自身などに出逢う旅ができます。

活動をはじめたきっかけ

地域の方々が私たちに教えてくださった、この島嶼地域の素晴らしい価値観・文化・楽しさを、ここを訪れる人たちに知ってもらえるきっかけになれば良いと思い、活動を始めました。私たちが体験させてもらって「いいな」「すてきだな」と感じていることを、「地図を手に歩く」ことを通じて、少しでも多くの人に届けられたらと思います。

応援してもらいたいこと

みなさんの思う島の魅力・伝統文化・昔からやっていること・島の好きなところなどをぜひ教えてほしいです。また、島の未来へ望むこと・理想の島嶼地域の形を知りたいと思っているので、ぜひお聞かせください。一緒に島を歩きながら、ゆんたく～できると嬉しいです。

チーム名：島しょ地域ほろほろプロジェクト　代表者：櫻木 章雄
Mail：info@naturemate.moo.jp

2 「食」+「音楽」で活気溢れる津堅島を取り戻すプロジェクト

内容

廃棄されていた津堅にんじんを使用した商品開発をします。また、ハンドメイド商品の製作・販売や、津堅島からの生配信事業など、新たなプロジェクトに一歩踏み出し津堅島を盛り上げていきます。

活動をはじめたきっかけ

宿・食堂以外にも様々な事業を行っていますが、独立した島で個人の力に限界を感じ、島しょ地域の方と繋がってみたいと思ったのがきっかけです。ワタクシプロジェクトに参加する島しょ地域での活動を考える方々との交流は、すごく刺激的で貴重な体験となりました。また、今まで津堅島のみの島おこし考えていた私ですが、別の離島の方々との交流をおこなった結果、島しょ地域の一体感を感じ、見聞をひろめるきっかけになりました。神谷荘から、津堅島。さらに島しょ地域。島しょ地域からうるま市と自分の目標が大きくなっていく感覚があります。

応援してもらいたいこと

〝なにもないがある島〟ですので、なんでも始めることが出来ます。皆様の得意なことや離島でやってみたいことなどぜひお話しお聞かせください。離島ならでのゆるい雰囲気で泡盛でも飲みながら、明るい未来の話に一緒に花を咲かせましょう。おいしいお料理、楽しい空間を用意してお待ちしております。

神谷荘　代表者：神谷 恭平
住所：うるま市勝連津堅1472-4／Mail:kyo_13w_all@yahoo.co.jp

公式HP

3 「緩み」「繋がる」地域交流をプロデュースするプロジェクト

内容

家や人の「再生」をテーマに、季節ごとの浜比嘉島を五感で体験できる場づくりをします。ワークショップなどに集う方々が「緩み」「自分時間」へと繋がるレンタルスペースとしての場づくりを目指します。

活動をはじめたきっかけ

ありがたいご縁が重なって浜比嘉島の古民家を借りられることになってから、自分の好きなことややりたかったことを実践する場として少しずつ手をかけて修繕してきました。仕事をしながら様々な事情で生きづらさを抱えている人たちの「居場所」がないことに気づき、そんな人たちの居場所になったら…と考えるように。資格・経験を生かした産婦人科や心療内科の訪問看護、いずれ島内だけで仕事ができるようになること、人を招き、つなぎ、循環させることを目指して、ワタクシプロジェクトに参加し活動をはじめました。

応援してもらいたいこと

島しょ地域の魅力を伝えて訪れた人が島時間を過ごせるよう、訪れた方をあちこち案内して循環を生んでいきたい。そのために様々な事業者さんと連携していきたいと思っています。すでに宿泊や飲食、アクティビティへのご案内連携もしていますし、島でのベビーシッターや島ナースとしての活動もしていますので、ぜひお気軽にご相談ください。古民家修復もよんな～しながらやっているので、一緒にやってくれる人を大募集！楽しい催し物も計画していますので、ぜひふらっと足を運んでみてくださいね。

くぅ企画　代表者：安藤 早苗
住所：うるま市勝連比嘉51番地

facebook　Instagram

4 生産者の人柄に惚れて作る「ぬちぐすい」料理プロジェクト

内容

島の生産者の人柄に惚れて見つけた食材を使って料理やイベントプロデュースを行います。「ぬちぐすい」料理をコンセプトに島や沖縄の食材を加工・販売したり、その土地の食材を生かしたイベントや出張料理も一緒に考えていきます。

活動をはじめたきっかけ

せっかく沖縄に来て食べる料理、食材が県外のものばかりという現実を知り、沖縄の料理、食の魅力をもっと知ってもらいたいという想いがはじまりです。何か出来ないかと思い、島の生産者様にご相談をして開催した料理教室、生産者と料理人のおもい、島の食材をより身近に感じてもらうイベント等をこれまで行いました。

応援してもらいたいこと

食を通じて人の役に立ちたいと思っています。特に、その地域にしかない食材を使った料理や、あまり若者世代に伝わっていない伝統料理など、後世のために誰かがやらなくてはならないものがあれば教えていただきたいと思っています。今まで、やんばるで行った県産スパイスのイベントや勝連城フェスの料理プロデュースをした経験があり、ぜひ生産者の方とも一緒に楽しみたいです。

L'origine（ロリジン）　代表者：角谷 健
Instagram：@lorigine_okinawa

Instagram

5 一緒にお茶でもしませんか？島暮らし体験のきっかけづくりをお手伝いするプロジェクト

内容

都会から離れた生活や農業に興味がある方に対して、それら体験の第一歩となるきっかけ作りをします。「いつか」、「機会があったら」など、なんとなくのその思いをカタチにしていく応援人です。

活動をはじめたきっかけ

私たち家族の目標は、自然豊かで私たちにゆかりのある島しょ地域で暮らすことです。現在、畑を営むために島しょ地域に通い、島暮らしにおける住居や仕事、金銭面、育児について情報を集め、計画を立てています。その中で転職や起業も視野に入れながら動いていかないといけないなぁと考えていたところに、このワタクシプロジェクトの情報が舞い込んできました。島しょ地域のこと、住んでいる方々、地域ごとの文化や風土などをもっと知りたい、生活や仕事のイメージを膨らませたいと思って参加しました。

応援してもらいたいこと

宮城島で畑をしていて、島しょ地域をウロウロしていることもあるので、一緒にユンタクしてもらえれば嬉しいです。どうぞよろしくお願いします！

高江州 昌太
Instagram：@shota.okinawa
Instagram

6 島の野菜や薬草を活かし病氣にならない生き方をお届けするプロジェクト

内容

「四里四方で生きる創り出す暮らし」をテーマに、できる限りこの地の恵みを活かした、菜食中心のお食事のお届け＆お食事の空間づくりを中心に、ご予約に応じてお弁当、オードブルも創作しています。

活動をはじめたきっかけ

友人の宿泊施設「かふーやー宮城」でのお食事のお届け依頼からPlantasyという名でサービスを始め、ほぼ4島内だけで営んでいました。これからは意外と身近にある栄養のある食材を多くの方に知って頂けたらという想いで、お弁当を定期的にお創りして、今回ご提案して頂いたラベルなどを使い本島にも活動の場を広げて行きたいと考えています。プロジェクトにお誘い頂いたきっかけでもある、島の友人たちの作る調味料、お茶、海藻などを詰めた島のギフトボックスも実現に向けて力を入れていきます！

応援してもらいたいこと

昔からの島の固定種について学んで種を継いでいきたいので、ご教授下さる方いらっしゃいましたらお願いいたします！島の共有財産としての固定種を守る畑が出来たら、、と構想中です。薬草、発酵、草木染め、心身の健康を保つお料理会、食べ物が自分に与える影響を感じながら植物について学ぶお料理会など、ワークショップのご依頼もお待ちしています！

Plantasy　代表者：池上高代
Instagram：@plantasy_company
Instagram

7 自然エネルギーをもっと身近に！「島の暮らしと自然エネルギー」プロジェクト

内容

今世界では、自然エネルギーの導入が急がれていますが、地域との共生が大きな課題となっています。自然の恵みで暮らしを作ってきた島しょ地域から、自然エネルギーを活用する暮らしのモデルを日本に発信していきたいです。

活動をはじめたきっかけ

大学卒業後から県内外で電力事業に携わってきました。この数年、県外での自然エネルギーの一つ、太陽光設備の導入の推進に取り組んできましたが、地域の人たちに理解してもらう大変さを身をもって痛感しました。しかし、自然エネルギーは停電時の非常電源や化石燃料の枯渇による電気料金高騰への備えともなります。
地域の方々の暮らしのためとなる自然エネルギーの活用を進めることで、日本でも最先端のモデルとなると考えています。

応援してもらいたいこと

まずは身近なエネルギーに興味を持ってもらいたいです！自宅や地域で使っているエネルギー（電気やガス）がどこから来ているか、どのように作られているのかを知ることで、エネルギーに対する見方が大きく変わります。実は暮らしの中の様々な部分にエネルギーが使われていますが、その中で太陽光で賄えるエネルギーも大きくあります。次世代に青い自然を残すためにできることの一つとして自然エネルギーの活用を一緒に考えていただけると嬉しいです！

Okinawa Energy Lab.　代表者：宮城 康智
Mail：yasutomo.miyagi@gmail.com
facebook

なんでナリワイ（月3万円ビジネス）が必要なの？

小さなナリワイは、好きなことや得意なことを活かして、小さなビジネスを生み出すための手法です。この「小さな」の目安は月3万円程度の利益を生み出すこと。ナリワイの秘訣は、「好きからスタート」「小さくスタート」「60点でスタート」すること。そうした取り組みが地域でたくさん起こることで、少しずつ地域の困りごとが解決したり、人間関係が育まれるなど、地域に小銭と笑顔が巡り、だんだんと地域が元気になるのです。

たとえば…

好きなこと × **困りごと** = **ナリワイ起業（利益：月3万円）**

暮らしから生み出す小さなソーシャルビジネス

農業のこと学びたいなぁ × 柿の木の面倒みてほしい = 柿の葉茶の新商品開発

ナリワイのポイント

- 好きからスタート
- 小さくスタート
- 60点でスタート

ナリワイ起業の効果

- 自分から動く人が増える
- 動く人同士がつながる
- 地域に笑顔と小銭がめぐる

1期生・2期生の伴走専門家

井東敬子さん
（鶴岡ナリワイプロジェクト 代表）